
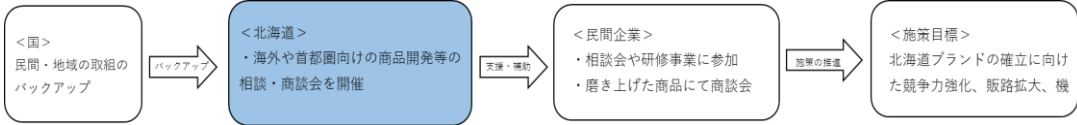


令和3年度 基本評価調書①		所管部局	経済部	所管課	食産業振興課	
施策名	食関連産業の振興			施策コード	05011	
政策体系(中項目)	本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造			政策体系コード	2(2)A	
知事公約	C0003 C0113	総合戦略	A3111 A3112 A3113 A3121 A3122	国土強靱化	B4221	事務事業数 13
SDGs				総合判定	やや遅れている	

【1 Plan】

施策目標	地域における企業や団体など関係者との連携体制や推進体制の構築、研究機関等の支援による付加価値の高い商品の磨き上げなどにより新たな需要の掘り起こしを推進する。					
現状と課題	マーケットニーズ等に対応した製品開発や既存製品の磨き上げなどにより付加価値をより高めていくとともに、国内はもとより、海外への販路開拓を進めることが必要。					
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における企業や団体など関係者との連携体制や推進体制の構築 ・食品業界団体等に関する情報収集、提供等 ・フード特区の取組の推進、特区制度の活用等の検討 ・地域食品加工技術センターによる研究開発支援 					
予算額(千円)	R 3	172,675	R 2	287,696	R 元	280,854
施策のイメージ						

＜成果指標の達成状況＞ ⇒ 3つ以外の指標は、補助指標調書に記載

指標名①	増加	万円	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
製造業の付加価値生産性(暦年)	目標値		1,116	1,198	1,280	1,280	80.1%	C
	実績値		978	991	1,025	-		
設定理由	総合計画における政策の方向性「本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造」の観点から指標として設定。							

分析(主な取組と成果)

国の統計(工業統計調査)は、R3.5に公表されたR2年度分(R1年度分の集計値)が最新。製造業全体では付加価値額、付加価値生産性とも着実に伸びているが、目標には達していない。

指標名②	増加	億円	H29年度	H30年度	R元年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
食品工業の付加価値額(暦年)	目標値		6,774	6,842	6,910	7,200	99.3%	B
	実績値		6,774	6,730	6,862	-		
設定理由	総合計画における政策の方向性「本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造」の観点から指標として設定。							

分析(主な取組と成果)

国の統計(工業統計調査)は、R3.5に公表されたR2年度分(R1年度分の集計値)が最新。食品工業においても付加価値額が着実に向上しているが、目標値には届かなかった。

指標名③			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
	目標値							
	実績値							
設定理由								

分析(主な取組と成果)

令和3年度 基本評価調書②	施策名	食関連産業の振興	施策コード	05011
---------------	-----	----------	-------	-------

【2 Do&Check】

成果指標	指標名	前々年度	前年度	評価年度	評価年度目標値	指標判定
成果指標	製造業の付加価値生産性（暦年）	978	991	1,025	1,280	C
	食品工業の付加価値額（暦年）	6,774	6,730	6,862	6,910	B
目標（指標）の達成状況	製造業全体、食品工業とも、指標には着実な進捗が見られるが、目標に届いていない状況。				指標総合判定	B
連携状況	商品の磨き上げや需要の掘り起こしにあたっては、食品業界関係団体や経済団体、地域企業、研究機関等の幅広い関係者と連携し取り組んでいるところ。				連携判定	○
緊急性優先性	食関連産業は本道の重要な基幹産業であり、その振興については複数の経済団体や地域から継続的に要望が上がっていることから、地域の企業や団体と連携しながら業界全体の付加価値額向上に取り組んでいる。				緊急性優先性判定	○
総合判定の根拠	食関連産業の高付加価値化、生産性向上に向けては、確実な進捗がみられるものの、目標値の達成のためには一層の取組強化が必要。				総合判定（一次評価）	やや遅れている

翌年度に向けた対応方針	対応方針番号	内容
	①	目標値の達成に向け、国の事業なども活用しながら、道内関係企業・団体と一層の連携を図りながら、一層の商品の磨き上げと販路確保に取り組む。
②		
③		

〈二次政策評価〉

前年度二次評価意見	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、施策の目標達成に向け事業内容を精査すること。	対応状況 (R3.3時点)	・ウィズコロナ・ポストコロナを見据え、食関連産業を牽引する人材育成を実施。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮したプロモーションを実施。
R3年度二次政策評価			

【3 Action】

二次政策評価への対応	
R4施策の方向性	商品の磨き上げと販路確保に関する取組を推進するため、国の「地域食品産業連携プロジェクト推進事業」を活用し、地域の農林水産物利用促進に係る異業種が参画するプラットフォームを運営するとともに、共通の課題認識及び戦略に基づいた商品開発とその販路開拓に対する支援を行う。

令和3年度 補助指標調書①	施策名	食関連産業の振興	施策コード	05011
----------------------	------------	----------	--------------	-------

【成果指標の達成状況】

補助指標名①	増加	億円	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R3)	達成率	指標判定
特区が関与した食品の輸出額・輸入代替額		目標値	510	1,030	1,730	2,600	66.9%	D
		実績値	600.1	904.3	1,157.4	-		
設定理由	北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特別区域計画に基づき、特区に及ぼす経済的社会的効果を測る評価指標及び数値目標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
輸出の主力であるホタテ等の水産品の輸出額の大幅な落ち込みや、北海道発着の国際航空路線の運休（貨物便のみ運行）に伴う羽田空港からの輸出振替や世界的なコンテナ不足に伴う発着遅延などの物流面が影響し目標が未達成となった。								

補助指標名②	増加	件	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R3)	達成率	指標判定
企業と一次産業との連携プロジェクト数		目標値	10	15	20	25	110.0%	A
		実績値	10	16	22	-		
設定理由	北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特別区域計画に基づき、特区に及ぼす経済的社会的効果を測る評価指標及び数値目標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
企業の連携ニーズの開拓や一次産業とのマッチング、連携プロジェクトの創出等を行い、プロジェクト数が22件となった。								

補助指標名③	増加	件数	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R3)	達成率	指標判定
輸出に必要な国際認証・登録等数		目標値	20	30	40	50	170.0%	A
		実績値	42	54	68	-		
設定理由	北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特別区域計画に基づき、特区に及ぼす経済的社会的効果を測る評価指標及び数値目標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
国際認証の取得・登録に向けた研修会を開催し、企業による認証取得・登録のサポートを行った。								

補助指標名④			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

補助指標名⑤			R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
		目標値						
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

